



tasar

Japan Tasar Association
<http://tasarjapan.org/>

87

Tasar News
Vol. 87
Feb 2007



第 21 回全日本選手権 (江ノ島) Photo by T.Miyashita

CONTENTS

今後のイベントスケジュール

TASAR SAILOR OF THE YEAR 2006 途中経過

【公示】 **ミッドウィンターレガッタ**

【レポート】

オータムレガッタ **第 21 回全日本選手権**



メジャー通信

2007 年ワールド情報

WORLD TOPICS 《海外情報》

編集後記

巻頭言



会長 金子文雄

セーリングの楽しみは自由を得る楽しみにあると常々思っている。日常から抜け出して海と空だけの世界へ乗り出し、何の制約もない開放感に浸る。水と風の力だけでどこへでも好きなところへ行く。街の喧騒から逃れて、身も心も海で癒される。

風を自由にコントロールし、風に向かって、風よりも速く走る秘訣を手に入れる。初めてヨットに乗ったときからいまだに解けないこの不可思議さに身を委ねながら、いつまでも新鮮な驚きを体感する。思い通りに、あるいは思った以上に風を駆使して走れた時、少しずつ自由な身になっていく気がする。

ヨットが2艇になった時から制約が生まれたと言われる。競い合う上でのルールが生まれ、今では

膨大なルールがヨットレースを支配している。自由を得たいものが、なぜ制約のある世界に自ら望んでやってくるのか。この疑問もなかなか解けない。自由だけでは物足りないのか、制約があって始めて自由に価値があるからなのか、制約を通じて真の自由を得ようと望むのか。

二人乗りのテザーはクルーとスキッパーがお互いに制約でもある。考え方も違えば動きも違う。思い通りにならないことが多い。お互いぶつかり合いながら、時に打ちのめされ、時にかばい合い、力を合わせてゴールを目指す。体のコントロールだけでなくマインドコントロールもほど遠い。喜怒哀楽さまざまな状況をくぐり抜けながら、二人で自由をつかもうともがき苦しんでいる。

自然そのものも行く手を阻む脅威となる。強風と波にどこまで耐えら

れるか、逆に風に耐えなければならぬこともある。ヨットレースは条件が異なるフィールドで競争しなければならないのも宿命だ。場所によって強弱もまちまち、風が振れば有利不利が逆転する。クルーを言いくるめることはできても、勝手気ままな風には文句が言えない。意志があるのかないのか分からない自然に支配されながら、その自然をいかにして味方に付けられるのか・・・

思い通りにヨットを操り、クルーとスキッパーが以心伝心でシンクロするのはいつのことか。ルールが身に染みこむように体得し、風が見えて自然の気持ちが分かるような境地には行き着けるのか。そうした自由な心を持ちたいと心底思うこの頃である。

Events

イベント情報

イベントに関するお問い合わせ

JTA イベント担当 赤井まで
mail: event@tasarjapan.org

イベントスケジュール

2006 年度

2007 年 2 月 18 日 ミッドウィンターレガッタ [稲 毛]

2007 年度

4 月 スプリングレガッタ [葉 山]

7 月 2 日(月) ~ 11(水)

テザー世界選手権 [タイ・プーケット]

7 月 西日本選手権 [芦 屋]

8 月 ミッドサマーレガッタ [猪苗代]

9 月 オータムレガッタ [江ノ島]

10 月 全日本選手権 [稲 毛]

2008 年 2 月 ミッドウィンターレガッタ [稲 毛]

TASAR SAILOR OF THE YEAR 2006 中間集計

順位	NAME	FLEET	スプリングレガッタ					西日本選手権					ミッドサマーレガッタ					オータムレガッタ					全日本選手権					RP	TP	
			葉山(4/29,30)					芦屋(7/16)					猪苗代(8/19,20)					江ノ島(9/17)					江ノ島(10/28,29)							
			RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP			
1	中島 玲子	葉山	2	35		0	35	2	22		3	25	15	1	2	3	1	27		1	28	10	39		1	40	124	131		
1	山本 晴之	葉山	2	35		0	35	2	22		3	25	15	1	2	3	1	27		1	28	10	39		1	40	124	131		
3	白岩 道孝	浜名湖	10	27		2	29	1	23		2	25		0	0	0	5	23		2	25	14	35		2	37	108	116		
4	本吉 謙治	葉山	16	21		0	21	8	16		3	19		0	0	0	4	24		1	25	2	47		1	48	108	113		
5	平生 純一郎	稲毛	14	23		1	24		0		0	0	1	15		2	17	6	22		1	23	3	46		1	47	106	111	
6	小松 充	葉山	1	36		0	36		0		0	0	12	4		2	6	7	21		1	22	4	45		1	46	106	110	
6	小川 雅	葉山	1	36		0	36		0		0	0	12	4		2	6	7	21		1	22	4	45		1	46	106	110	
8	赤井 寛	江ノ島	3	34		1	35		0		0	0	5	11		2	13	9	19		0	19	9	40		0	40	104	107	
9	野嶋 嘉昭	葉山	4	33		0	33		0		0	0	4	12		2	14	8	20		1	21	15	34		1	35	99	103	
10	建内 満	葉山	6	31		0	31	5	19		3	22	3	13		2	15	12	16		1	17	36	13		1	14	92	99	
10	岡 誠	葉山	6	31		0	31	5	19		3	22	3	13		2	15	12	16		1	17	36	13		1	14	92	99	
12	宇佐美 重則	稲毛	17	20		1	21		0		0	0	2	14		2	16	2	26		1	27	17	32		1	33	92	97	
13	千波 正隆	江ノ島	3	34		1	35		0		0	0		0		0	9	19	3	0	22		0	38	0	0	38	53	95	
14	宮下 知之	葉山		0	24		0	24	3	21		3	24		0	0		0			0	0		0	38	0	0	38	21	86
15	高山 勝	琵琶湖	8	29		3	32	7	17		1	18		0		0	0				0	0	20	29		3	32	75	82	
16	石丸 寿美子	葉山		0		0	0		0		0	0		0		0	3	25		1	26	1	48		1	49	73	75	75	
17	蜂須賀 強	浜名湖	23	14		2	16		0		0	0		0		0	0	11	17		2	19	13	36		2	38	67	73	
18	久礼 嘉伸	葉山	32	5		0	5		0		0	0	9	7		2	9	13	15		1	16	8	41		1	42	68	72	
18	中西 英貴	芦屋	9	28		3	31	4	20		0	20		0		0	0				0	0	31	18		3	21	66	72	
18	村尾 隆	江ノ島	11	26		1	27		0		0	0	5	11	2	2	15	15	13	3	0	16	40	9	5	0	14	59	72	
21	星野 直広	江ノ島	15	22		1	23		0		0	0		0		0	0	16	12	3	0	15	23	26	5	0	31	60	69	
22	安澤 厚男	芦屋	18	19		3	22	15	9		0	9		0		0	0				0	0	18	31		3	34	59	65	
22	下村 晃司	芦屋	13	24		3	27	6	18		0	18		0		0	0				0	0	32	17		3	20	59	65	
24	金子 文雄	稲毛	29	8		1	9	20	4		3	7		0		0	0	27	1		1	2	5	44		1	45	57	63	
24	金子 川三	稲毛	29	8		1	9	20	4		3	7		0		0	0	27	1		1	2	5	44		1	45	57	63	
26	本間 威	葉山	22	15	24		0	39		0	0	0		0		0	0	20	8		1	9	38	11		1	12	34	60	
27	田口 裕介	葉山	20	17		0	17		0		0	0		0		0	0	17	11		1	12	21	28		1	29	56	58	
28	三輪 記裕	大阪北港		0		0	0	9	15		1	16		0		0	0				0	0	11	38		3	41	53	57	
29	加野 靖紀	博多	25	12		3	15	17	7		3	10		0		0	0				0	0	22	27		3	30	46	55	
30	小林 昌弥	葉山	7	30		0	30		0		0	0		0		0	0				0	0	26	23		1	24	53	54	
31	宮本 哲生	稲毛	30	7		1	8		0		0	0		0		0	0				0	0	7	42		1	43	49	51	
31	関口 真秀	葉山		0		0	0		0		0	0		0		0	0	4	24		1	25	24	25		1	26	49	51	
33	小沢 拓身	野比	8	29		1	30	7	17		3	20		0		0	0				0	0		0		0	0	46	50	
34	外石 満	葉山	21	16		0	16		0		0	0	8	8		2	10	24	4		1	5	37	12		1	13	40	44	
34	石原 裕二	葉山	22	15		0	15		0		0	0	10	6		2	8	20	8		1	9	38	11		1	12	40	44	
36	梅田 哲士	葉山		0		0	0		0		0	0	6	10		2	12	22	6		1	7	27	22		1	23	38	42	
37	山分 信	江ノ島	34	3		1	4		0		0	0		0		0	0	18	10		0	10	30	19	5	0	24	32	38	
37	田口 公一	江ノ島	34	3		1	4		0		0	0		0		0	0	18	10		0	10	30	19	5	0	24	32	38	
39	田中 真人	稲毛	24	13		1	14		0		0	0		0		0	0				0	0	28	21		1	22	34	36	
39	山下 栄輝	葉山		0		0	0		0		0	0		0		0	0	14	14		1	15	29	20		1	21	34	36	
39	瀧本 浩一	江ノ島	27	10		1	11		0		0	0		0		0	0	19	9	3	0	12	41	8	5	0	13	27	36	

順位	NAME	FLEET	スプリングレガッタ					西日本選手権					ミッドサマーレガッタ					オータムレガッタ					全日本選手権					RP	TP			
			葉山(4/29,30)					芦屋(7/16)					猪苗代(8/19,20)					江ノ島(9/17)					江ノ島(10/28,29)									
			RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP					
42	長谷川 勝啓	浜名湖		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		16	33		2	35	33	35			
43	龜山 寛達	稲毛	5	32		1	33		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	32	33			
44	玉置 淳	芦屋		0		0	0	19	5		0	5		0	0		0	0		0	0		25	24		3	27	29	32			
45	杉浦 琴	葉山		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		19	30		1	31	30	31			
45	野本 雅史	葉山	26	11		0	11		0		0	0	11	5		2	7	22	6		1	7	44	5		1	6	27	31			
47	河野 恭子	博多	25	12		3	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		22	27		3	30	39	30			
48	荒島 謙治	葉山	7	30		0	0		0		0	0	13	3		2	5	23	5		1	6	35	14		1	15	52	26			
48	大橋 武史	葉山	19	18		0	18		0		0	0		0	0		0	0		21	7		1	8		0	0	25	26			
48	関根 恒久	稲毛		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		24	25		1	26	25	26			
51	高橋 徹	江ノ島	28	9		1	10		0		0	0		0	0		0	0		25	3	3	0	6	46	3	5	0	8	15	24	
52	多井 堅一郎	葉山	33	4		0	4		0		0	0	7	9		2	11		0			0	0	42	7		1	8	20	23		
52	池田 俊則	大阪北港	31	6		3	9	11	13		1	14		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	19	23		
54	井上 敦	稲毛		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		28	21	1	22	21	22	
55	安原 美郎	葉山	35	2		0	2		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		33	16	1	17	18	19	
56	徳田 幹太	大阪北港		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		34	15	3	18	15	18	
56	吉村 均	大阪北港		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		34	15	3	18	15	18	
58	秋吉 寿美子	大阪北港		0		0	0	11	13		1	14		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	13	14		
59	白杵 辰朗	大阪北港		0		0	0	12	12		1	13		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	12	13		
59	池田 光孝	西宮		0		0	0	18	6		0	6		0	0		0	0		0	0		0	0		45	4	3	7	10	13	
61	佐藤 和紀	芦屋		0		0	0	16	8		0	8		0	0		0	0		0	0		0	0		48	1	3	4	9	12	
61	佐々木 和人	江ノ島		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		26	2	3	0	5	47	2	5	0	7	4	12	
63	中村 博士	芦屋		0		0	0	13	11		0	11		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	11	11		
64	植田 泰平	芦屋		0		0	0	14	10		0	10		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	10	10		
65	鈴木 章弘	芦屋		0		0	0	16	8		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		43	6	3	9	14	9	
66	阪井 祐介	葉山		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		42	7	1	8	7	8	
66	角野 朋子	芦屋	36	1		3	4	20	4		0	4		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	5	8		
68	遠藤 宗翁	葉山		0		0	0		0		0	0	14	2		2	4		0	0		0	0		0	0		0	0	2	4	
68	掛川 宏	芦屋		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		48	1	3	4	1	4	
70	佐藤 次郎	中部北陸		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	
70	中井 靖典	芦屋		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	
70	稲森 久彦	大阪北港		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	
70	長野 国比古	琵琶湖		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	
70	渡辺 克充	芦屋		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	
70	川戸 仁	中部北陸		0		0	0		0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	

Tasar Sailor of the Year 凡例:

RR: Race Result (レース順位)

: JTA未加入期間

RP: Race Point (レース成績点=参加艇数-順位(RR)+1)

CP: Committee Point (運営参加点=参加艇数*0.8)

レースも出た場合=参加艇数*0.1

Visiting Point (遠征点:距離による遠征ポイント)計算

5点:1200km以上

2点:150km以上400km未満

4点:700km以上1200km未満

1点:150km未満

3点:400km以上700km未満

0点:本拠地

#所属フリート若しくは艇の保管場所と自宅が150km以上離れている場合、遠征ポイントは自宅からの距離を対象とする。

遠征距離計算

	最寄IC	葉山	江ノ島	野比	稲毛	浜名湖	琵琶湖	大阪北港	芦屋
葉山	逗子IC	NA	約10km	約10km	約100km	約250km	約500km	約550km	約550km
江ノ島	逗子IC	約10km	NA	約20km	約100km	約250km	約500km	約550km	約550km
野比	逗子IC	約10km	約20km	NA	約100km	約250km	約500km	約550km	約550km
稲毛	幕張IC	約100km	約100km	約100km	NA	約300km	約550km	約600km	約600km
浜名湖	浜松IC	約250km	約250km	約250km	約300km	NA	約250km	約300km	約300km
琵琶湖	大津IC	約500km	約500km	約500km	約550km	約250km	NA	約70km	約70km
大阪北港	舞洲IC	約550km	約550km	約550km	約600km	約300km	約70km	NA	約20km
芦屋	西宮IC	約550km	約550km	約550km	約600km	約300km	約70km	約20km	NA

	最寄IC	葉山	江ノ島	野比	稲毛	浜名湖	琵琶湖	大阪北港	芦屋
葉山	逗子IC	0P	1P	1P	1P	2P	3P	3P	3P
江ノ島	逗子IC	1P	0P	1P	1P	2P	3P	3P	3P
野比	逗子IC	1P	1P	0P	1P	2P	3P	3P	3P
稲毛	幕張IC	1P	1P	1P	0P	2P	3P	3P	3P
浜名湖	浜松IC	2P	2P	2P	2P	0P	2P	2P	2P
琵琶湖	大津IC	3P	3P	3P	3P	2P	0P	1P	1P
大阪北港	舞洲IC	3P	3P	3P	3P	2P	1P	0P	1P
芦屋	西宮IC	3P	3P	3P	3P	2P	1P	1P	0P

レース公示

2007年 テーザーミッドウィンターレガッタ

2007年2月18日(日)

稲毛ヨットハーバー

主催：日本テザー協会

1. 規則

- 1.1 本レガッタには「セーリング競技規則」に定義された規則を適用する。
- 1.2 日本セーリング連盟規程5は適用しない。
- 1.3 競技規則 付則G3を次の通り変更し適用する。
G3 チャーターまたは貸与した艇
レース公示、または帆走指示書に記載している場合、大会の為チャーターした艇または貸与した艇には、クラス規則に違反している文字やセール番号(他の参加者と重複しない)を付けることができる。
- 1.4 テーザークラスルールC.6(クルー重量)は適用しない。
- 1.5 レース公示と帆走指示書の間に矛盾がある場合、帆走指示書を優先する。
- 1.6 テーザークラスルール補足説明32に関し、レース終了時に陸上で航跡データを取り出すこと以外はできないことを条件にGPS端末の搭載を認める。なお、GPS端末の搭載はレース委員会の許可を必要とする。

2. 広告

広告カテゴリーAである。

3. 参加資格

3.1 次の(1)～(2)の要件を全て満たすこと。

(1) 乗員のうち少なくとも1名が各国の2006年度テザー協会会員であること。

(2) 3.2項または3.3項のいずれかの方法で参加申し込みをすること。

3.2 次の(1)～(2)のいずれかの方法で2007年2月10日(土)までに参加を申し込みを完了すること。

(1) 協会の公式ホームページ (<http://tasarjapan.org/>) よりオンラインエントリー

(2) 申し込み用紙の内容をE-mailで inage@tasarjapan.org に送付

3.3 参加申し込みが遅れた場合には、次の条件で受け付ける。
当日2月18日(日)8:30までに申し込み、レイトエントリーフィーを支払う。

4. 参加料

- 4.1 参加料は、1艇5,000円とし、受付時に徴収する。
- 4.2 艇を持ち込む場合には、施設利用料として1艇あたり1,000円を受付時に徴収する。

4.3 レイトエントリーフィーは1艇2,000円とする。

5. 日程

- 2月18日(日) 8:00～受付
9:00～開会式・艇長会議
10:30 第1レーススタート予告信号
引き続き第2、第3、第4レースを実施
16:00～閉会式・表彰式

6. 計測

レース委員会は何時でも計測を行うことができる。

7. 帆走指示書

2月18日(日)の艇長会議で交付する。

8. 開催地

千葉市稲毛ヨットハーバー(沖海面)

9. コース

内角が60°の「風上-風下-トライアングルコース」を用いる。廻航方法は帆走指示書で示す。

10. 得点

10.1 シリーズの成立には1レースを完了することが要求される。

10.2 艇のシリーズの得点は全レースの合計得点とする。

11. 無線通信

艇はレース中無線通信を行ってはならない。また、全ての艇が利用できない無線通信を受信してはならない。この制限は、携帯電話にも適用する。

12. 賞

総合1～3位に賞を授与する。主催者はこれ以外の賞を設ける場合がある。

13. 免責

競技者は、完全に自己のリスクでレガッタに参加する。規則4「レースをすることの決定」を参照のこと。主催団体は、レガッタの前後、レガッタ期間中に生じた物理的損害または個人の身体的障害もしくは死亡に対するいかなる責任も負担しない。

14. 安全もしくは環境保護に関する規程

14.1 1艇あたり3名もしくはそれ以上の乗員がレースに参加する場合には、受付時に各レースの乗員をあらかじめ登録することができる。

14.2 JSAF環境キャンペーンの趣旨に則り、陸上、洋上にかかわらず、レース参加艇からのごみ投棄を禁ずる。

15. 追加情報

さらに詳しい情報を得るには、日本テザー協会ウェブサイト (<http://tasarjapan.org/>) を参照していただくか、稲毛フリートキャプテン田中までE-mail(inage@tasarjapan.org)にてお問い合わせください。

Racing

レース情報

オータムレガッタ



山本・中島組 優勝

Sep. 17, 2006 Enoshima YH

日本列島に台風が接近する中、27チームが江ノ島に集まり4レースの熱戦を繰り広げました。葉山の山本・中島組が優勝を果たし、稲毛の宇佐美・小田倉組が準優勝となりました。

テザーオータムレガッタレポート

2396 葉山フリート 山本 晴之

9 /17に江ノ島においてテザークラス・オータムレガッタが行なわれました。約一ヶ月後に控えた江ノ島・全日本の前哨戦にふさわしく30艇近い参加があり、4レースが成立致しました。

私達2396艇、山本・中島チームはスプリング・西日本とも参加し、好きな中風以上のコンディションだった為それぞれ2位という成績でした。成績には満足していませんでしたが、中風以上でのマイラーでの走りにはチームとしてある程度の自信が付きはじめていました。そういった中で中島とは、全日本で万が一微風だとやばいので、オータム

は微風を経験したいねと話していました。しかし、1・2レース目共にいい風で、3・4レースも風がおちたレグもありましたが、まあまあ風がありました。

そんな訳で優勝してしまいましたが、第3・第4レースの風がおちたレグでは、平生チーム、伊藤・石丸チームの速さが目に付き、マイラーでの微風の走りには不安を抱えたままオータムが終わってしまいました。本吉チームはまほろちゃんが復帰したせいかすべてのレースで走りにキレがあり、さすがだと思いました。

あー、全日本、まさかこの季節の江ノ島で微風はないだろうと期待しつつ帰路につきました。運営のみなさん、お疲れ、ありがとうございました。



2006年度 オータムレガッタ

2006年9月17日 江ノ島

総合

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		合計
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	2396	葉山	一般	山本 晴之	中島 玲子	3	3	5	5	6	6	2	2	16
2	2730	稲毛	M	宇佐美 重則	小田倉 里美	4	4	6	6	7	7	3	3	20
3	2706	葉山	一般	伊藤 由	石丸 寿美子	8	8	3	3	9	9	1	1	21
4	2395	葉山	M	本吉 譲治	関口 真秀	1	1	2	2	1	1	OCS	28	32
5	2707	浜名湖	GM	石塚 恒志	白岩 道孝	2	2	15	15	5	5	10	10	32
6	2669	稲毛	一般	平生 純一郎	平生 玲子	14	14	11	11	3	3	5	5	33
7	2761	葉山	一般	小川 雅	小松 充	5	5	1	1	4	4	OCS	28	38
8	2709	葉山	M	野嶋 嘉昭	石川 洋二	OCS	28	4	4	2	2	7	7	41
9	2762	江ノ島	M	赤井 寛	千波 正隆	10	10	7	7	15	15	11	11	43
10	2572	稲毛	一般	軽部 香	軽部 竜也	9	9	OCS	28	8	8	4	4	49
11	2809	浜名湖	M	蜂須賀 強	新井 実	18	18	12	12	11	11	9	9	50
12	2720	葉山	一般	岡 誠	建内 満	12	12	17	17	14	14	8	8	51
13	2768	葉山	一般	渡辺 さおり	久礼 嘉伸	6	6	OCS	28	13	13	6	6	53
14	2621	葉山	M	山下 栄輝	松田 浩一郎	7	7	14	14	18	18	14	14	53
15	2806	江ノ島	M	村尾 隆	津田 展明	16	16	8	8	12	12	17	17	53
16	2732	江ノ島	一般	星野 直広	安田 貴美子	15	15	13	13	16	16	12	12	56
17	2615	葉山	一般	田口 裕介	森 理子	11	11	9	9	19	19	21	21	60
18	2652	江ノ島	SGM	山分 信	田口 公一	17	17	18	18	10	10	15	15	60
19	2741	江ノ島	一般	瀧本 浩一	塚原 郁郎	21	21	10	10	21	21	13	13	65
20	2748	葉山	M	石原 裕二	本間 威	13	13	20	20	23	23	19	19	75
21	2453	葉山	一般	田中 剛	大橋 武史	19	19	16	16	22	22	18	18	75
22	2708	葉山	一般	野本 雅史	梅田 哲士・永尾 岳志	22	22	19	19	17	17	20	20	78
23	2203	葉山	一般	荒島 謙治	小松 利英・町田 亜紀	20	20	23	23	20	20	16	16	79
24	2609	葉山	一般	外石 満	有持 祐之・谷津 美幸	24	24	21	21	24	24	22	22	91
25	2466	江ノ島	M	高橋 徹	長澤 治	23	23	22	22	25	25	23	23	93
26	2211	江ノ島	一般	佐々木 和人	大塚 正規	25	25	24	24	DNF	28	DNS	28	105
27	2676	稲毛	GM	金子 文雄	金子 ルミ	DNF	28	DNS	28	DNS	28	DNS	28	112

マスタークラス (スキッパー、クルーの合計年齢 80 歳以上)

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		合計
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	2730	稲毛	M	宇佐美 重則	小田倉 里美	2	2	3	3	3	3	1	1	9
2	2395	葉山	M	本吉 譲治	関口 真秀	1	1	1	1	1	1	OCS	10	13
3	2709	葉山	M	野嶋 嘉昭	石川 洋二	OCS	10	2	2	2	2	2	2	16
4	2762	江ノ島	M	赤井 寛	千波 正隆	4	4	4	4	6	6	4	4	18
5	2809	浜名湖	M	蜂須賀 強	新井 実	7	7	6	6	4	4	3	3	20
6	2621	葉山	M	山下 栄輝	松田 浩一郎	3	3	7	7	7	7	5	5	22
7	2806	江ノ島	M	村尾 隆	津田 展明	6	6	5	5	5	5	6	6	22
8	2748	葉山	M	石原 裕二	本間 威	5	5	8	8	8	8	7	7	28
9	2466	江ノ島	M	高橋 徹	長澤 治	8	8	9	9	9	9	8	8	34

グランドマスタークラス (スキッパー、クルーの合計年齢 100 歳以上)

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		合計
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	2707	浜名湖	GM	石塚 恒志	白岩 道孝	1	1	1	1	1	1	1	1	4
2	2676	稲毛	GM	金子 文雄	金子 ルミ	DNF	3	DNS	3	DNS	3	DNS	3	12



優勝

山本 晴之・中島 玲子組 (葉山)



第2位・マスタークラス優勝

宇佐美 重則・小田倉 里美組 (稲毛)



第3位

伊藤 由・石丸 寿美子組 (葉山)



前日練習が活きた！ 伊藤・石丸組に栄冠

第21回

全日本選手権大会

Oct. 28-29, 2006
Enoshima YH

Photo by T.Miyashita

微・軽風シリーズを制した新参 & 復活組

～マイラーセールの時代が到来～

金子 文雄

テ ザーが初めて日本の海に浮かんだのは1985年の江ノ島。それから20年が経ち、同じ江ノ島で10月28～29日、21回目となる全日本選手権大会が開催された。今年はテザーが誕生してちょうど30周年に当たる。今年新たに登場したマイラーセールを使った最初の全日本選手権大会でもある。久しぶりに江ノ島で行われたこともあり、参加48チームとにぎやかな大会となった。微・軽風のシリーズとなった今年の全日本選手権を制したのは、8月からテザーを始めたばかりの伊藤由と石丸寿美子のペアだった。(文中敬称略)

全国から48チームが江ノ島に参集

全国各地から集まったテザーセラーは、最大フリートの葉山を筆頭に地元江ノ島、稲毛、浜名湖、琵琶湖、大阪北港、芦屋、西宮、福岡と多方面に及ぶ。海外からも常連となったオランダのコンスタンティン・ウドの他に、英国から真由美&ティム・ナイト夫妻が来日した。今年9月に英国で行われたナショナル選手権に日本のチームが招待されたのを受けて、相互訪問という形で英国のチームを招待した。

連覇を狙うのは昨年津で優勝した葉山の小松・小川組、前回2000年の江ノ島大会優勝の本吉・穂積・陣内チーム、最軽量チームである稲毛の平生夫妻も得意の軽風を武器に秘かな闘志を燃やしていた。前月同じ江ノ島のオータムレガッタで優勝した葉山の

山本・中島組や、今年7月の西日本選手権で優勝した浜名湖の石塚・白岩組も顔を揃えている。しかしそれ以上に気合いが入っていたのは、ニューカマーの伊藤・石丸組だった。

初日の10月28日は北東の風がスタートの頃には南に変わり、2～3m/sの軽風でレースが始まった。何回かのゼネリコの後、飛び出したのは平生夫妻組。これに葉山の渡辺・久礼組、本吉・陣内組、英国のナイト夫妻が続いた。先頭集団は振り回る軽風を着実に捉えて後続を引き離しながらレースが展開した。終始リードを保った平生組だがフィニッシュのホーンがならずOCS。続くナイト組が初戦を制し、渡辺・久礼組、伊藤・石丸組とフィニッシュした。このレースではリコールが大量に発生した。

第2レースは左海面が支配的となり、有利なアウターからスタートしたチームがフリートをリードした。風が次第に弱まる中、またも平生組がトップに立ちそのままフィニッシュ。これに伊藤・石丸組、稲毛の軽部組が続いた。これ以上風が期待できないと判断した運営陣はH旗を掲揚して初日のレースを終えた。この結果、初日の順位は1位伊藤・石丸組、2位本吉・陣内組、3位小松・小川組となった。

クラスや組織を超えた運営サポート

今大会のレース運営は神奈川県連が主体となり、末木創造・レース委員長、オンザウォータージャッジにはインターナシヨナ

ルアンバイヤーの榛葉克也、秋元和子、川北達也の3氏が当たった。これに江ノ島の国際14フリートのメンバー、広島大OB、東京農工大OB・現役など30名を超えるスタッフがレースを支えてくれた。クラスや組織を超えたサポートのありがたさを感じた大会となった。

2日目は4~5m/sの北風という今大会で最も風に恵まれたの中で第3レースがスタートした。ブローが次第に北西寄りにシフトし、アウターからスタートした艇団がヘッダーを得て早々にポートのレイライン付近まで達し、上マークへのアプローチを伺っていた。稲毛の金子組、浜名湖の長谷川・有木組、葉山の本吉・神内組の順で上マークを回航し、2回目のフリーで本吉・神内組がトップに立ってそのままフィニッシュ。これに金子組、琵琶湖の秋山・高山組が続いた。

気楽にテザーが本気に

続く第4レースは若干風が落ちて振れ戻る中、本部船有利のラインからスタート。前半は先のレースに続いて左海面が有利だったが、後半は風が落ちて右海面に大きくシフト。これを察知して3度目の上りを右海面に伸ばした伊藤・石丸組が大逆転し、コース短縮となった上マークへトップフィニッシュ。左へ伸ばした先行艇は大きく出遅れた。

次の第5レースが成立すると1カットとなり、第1レースでOC5を叩いたチームが浮上する。ところが風がピタリとなくなりしばらく風待ち。約1時間半後、南からの微風で第5レースがスタートした。20度ほどの風の振れをうまくつかんだ平生組、ウド・宮本組、軽部組が先行。弱まる風の中を辛抱強く走り切り、平生組が2度目のトップフィニッシュ。ウド・宮本組に続いて、伊藤・石丸組が3位となった。

この結果、今年の日全日本チャンピオンには3-2-10-1-3と手堅くレースをまとめた伊藤・石丸組がいきなり初優勝を成し遂げた。今年8月からテザーに乗り始め、3カ月の猛練習振りほどのチームをも圧倒していた。元470のナショナルチームのメンバーで、セールメーカーにも勤めていた伊藤由だが、気楽にテザーを始めようと思っていた彼に火を付けたのは、しばらくのブランクの

後にテザーに復帰した石丸寿美子だった。2位の本吉・穂積・神内組に6ポイントの差をつけての優勝は、3カ月前にテザーを始めたとはいえないセーリングセンスの良さとレース運びのうまさを見せつけている。3位の平生組は軽風での圧倒的なスピードを武器に、昨年優勝の小松・小川組に3ポイント差で3位に入った。

マイラーセール対ダクロンセール

今大会でもう一つ注目されたのはマイラーセール対ダクロンセールの対決だ。ちょうど半々ずつのエントリーとなったが、結果はマイラーセールが上位を独占した。ダクロンセールの上位が7位、16位、19位で、数字の上でもマイラーセールの時代がやってきた感がある。少しだけセールエリアが大きくなり、メイン・ジブともにフルバテンでローチが張り出し、風の強弱をオートマチックに吸収するデザインと素材がテザーに新しい走りをもたらそうとしている。すでにマイラーセールは国内で40セットが完売し、全日本でその性能差を見せつける格好となった。

男女チームが上位を独占

テザーの特徴の一つでもある男女チームの多さも今大会で目立った。上位3位までを男女チームが占めたのははじめ、10位までのうち7チームが男女チームだった。楽しみの一つのパーティーも自然華やかな雰囲気になる。しかしアットホームな中にもピリッとした闘志が潜んでいることを感じさせたのが初日のプロテストだった。オンザウォータージャッジの笛も穏やかな海に緊迫感を走らせた。今回初めて行われた抜き打ち計測も、選手の間で緊張感をもたらしたようだ。

表彰式は江ノ島フリートが準備したスタンドグラス製の入賞メダルをはじめ、たくさんの賞品が用意され、最後はジャンケン大会となって会場を盛り上げた。笑いあり涙あり、多くのドラマが込められた大会はテザークラスにまた一つの歴史を刻んだようだ。来年の日全日本選手権が行われる稲毛での再開を合い言葉に選手は全国各地へと散らばって行った。

(注：KAZI 2007年1月号寄稿のレポートと一部重複します。)

全日本選手権レースレポート

2706 葉山フリート 伊藤 由

僕たちは、8月に初めてチームを組み、そこから練習を開始して全日本までに十数回の練習をしてきました。来年のタイ・ワールドを視野に入れ、初めての全日本参加は未知数のレースでしたが、とにかく一生懸命練習をし、基本的に忠実にいき、楽しく、そして全力を出し切ることをテーマにレースに臨みました。

レース前日の金曜日の朝に江ノ島入りし、葉山の渡辺さおりちゃん・久礼さんチームとともに艇重量などの計測を行い、ルール違反がないように万全を期しました。

午後には出艇し、3~5mの北風の中2艇でスピードチューニングを行いました。遅い方の艇が何かセッティングを変えるという方法で何度かセッティングを変えながら走り合わせます。どちらかが前に

出た場合、それがスピードの差か、風の影響なのかを判断しながら、上下の位置も入れ替えていきます。その後は小松さん・まさる君艇などと夕方まで走り合わせ、レース前の最終調整を行いました。結局僕たちは、この風では今までのセッティングからジブのクリューボードをひとつ変えると良いことがわかり、迷いがなくなってすっきりとした気持ちでレースを迎えることが出来ました。そして実はこの数時間の練習が今回の僕達の走りにとっても大きな意味がありました。というのは、全日本本番は5レース中4レースはこの風域で行われたからです。

初日は、朝から10月末とは思えない暖かい陽気。久々のヨットレースと言うことで、僕のファミリーも東京から応援にやってきました。彼らに見送られながら、僕たち

は3番目に出艇しボートスピードや風をチェックしながらレース海面に向かいます。途中風は東から南に変わり、風軸が安定するまで風待ちの後、南南東2~3mの不安定な風の中で第一レースがスタートしました。

最初のスタートは15度ほど下有利で、僕たちは下3分の1あたりから良いスタートを切りましたがこれはゼネリコ。次のスタートは1旗が上がりました。ラインは10~15度ほど下有利です。海面としても左の風軸で、ポートロングのコースです。しかし、気温が上がればさらに右に風が振れてくる可能性もあり難しいところ。僕たちは数分毎に何度も風軸を計って風の振れの傾向を見ながら、どちらにも行けるように真中付近からスタートすることにしました。スタートラ

インは1旗掲揚後、多くの艇がリコールを警戒してかなり凹んでおり、かなり余裕をもってフルスピードでラインを切ることができました。スタート後即タックし、ポートを伸ばします。1上は左海面を使った本吉譲治さん・穂積さんチームがトップで回航、140kgのコンビでこの走りはさすがです。そして、2番に昨日一緒に練習した渡辺さおりちゃん・久礼さん艇、3番に稲毛の平生夫妻と続き、僕たちは4番で回航、5番にイギリスのTIM夫妻と続きます。1上までは左海面を上手に使った艇が上位に入ったようなので、次の2上までは左寄りに位置取りしながらブローとシフトに合わせてタックをしながら走らせます。2上は圧倒的なスピードでTOPが上がった平生夫妻に続き、上マーク手前で右のブローを上手く掴んだイギリスのTIM夫妻が2位に順位を上げます。3位に安定したスピードで渡辺さおり・久礼さん艇、4位に僕達と続き、そのままフィニッシュ。平生夫妻がリコールだったため順位繰上げで僕たちは3位に入りました。

このレースは風が弱く風軸が安定していなかったのとにかく風の振れとブローを上手に見極めた艇が上位に入りました。そして僕達はスピード・角度とも良いことがわかり、次への自信となりました。セッティングは基本的には波がない海面なのでジブは出来るだけ引き込み、メインモリーチリポンが半分くらいストールするまでシート・テンションをかけたあと、トラペラーを使ってセンターラインまでブームを引き込みます。ただし、運営艇や他艇の引き波などで艇が揺れるときにはメインシートを充分に出してスピードが落ちないように走らせていました。

第2レースは、風速はほぼ同じでしたが、レースの前に潮をチェックしたところ240度から約60度の方向に潮流があることを確認。風速が弱いので無視できない速さで流れています。

この潮の影響を考えると、スタートラインに対して右斜め前方から押される角度

なので、まずスタートラインが凹み気味になること、上りはポートが向かい潮なのでポートロングになること、上マークのアプローチラインは余裕が必要なこと、上～サイドは膨らみ過ぎずに注意、逆にサイド～下は向かい潮で落とされるので、スピードを止めないよう上らせぎみにすることを頭にイメージします。

スタートは最初から1旗が上がリ、案の定、潮に押されてスタートラインはかなり凹んでいます。そして更にスタート2分前には風が大きく左に振れ、極端な下有利となります。真中からのスタートを考えて位置取りしていた僕たちは、すぐにポートにタックしてラインぎりぎりまで上がり、ラインと平行にアウトターに向かってクローズに近い角度でスターボで船を走らせます。多くの船が、ラインに近づけないでいる中、ライン上をフルスピードで流し、下3分の1辺りからスタート同時に即タックを切ることが出来ました。スタート前に風軸をこまめにはかっていたので、この大きなシフトにいち早く気づけたのはラッキーです。

僕たちよりも下で良いスタートを切ったのは、平生夫妻艇、そして譲治さん・穂積さん艇です。その後、リーチを開き気味にしてスピード重視の走りをして、1上はこの風域でダントツのスピードを持つ平生夫妻艇に次ぐ2番で回航。そしてこのフリーでショックな光景を目撃します。今回のレースはオンザウォータージャッジが採用されていましたが、サイド～下ですぐそばを走っていた赤井さん艇がロッキングでペナルティーを受けたのです。僕たちから見ていても、特に目立った動作は見られなかったので、何か自分達では理解できない基準があるのかと思い、僕ら2人は恐怖で体を固めたのでした。

その後、そのままブローとシフトを見落とさないように風を拾いながら走り、このレースは2番でフィニッシュすることが出来ました。

初日は2レースを消化し、3位-2位で僕たちは暫定トップ。2位には5位-4位で譲治さん、3位には、昨年のチャンピオンの小松さん・まさる君艇が続きます。

2日目。第3レースはどんより曇り空で4～5mの北風のなか行われました。9月のオータムレガッタを思い出すコンディションです。このレースでは、テザー経験のなさを痛感しました。フルパワーの風域では誤魔化しは効かず、ポートスピードがなければ上位には食い

込めません。僕たちはスピードがまったく足りず、並んで走っても上突破できてしまいます。走りながら色々とセッティング変更を試みますが、それでも思うように前に出れません。なんとか最後まで喰らい着いて走り、10位でフィニッシュしました。このレースで譲治さん・神内さん艇が1位で入ったため、この時点で順位は逆転しました。僕たちとしては捨てレースを作ってしまったためにもう後がありません。コンディションは変わらず風速もそのままに次のレースが始まりそうです。

僕たちはフィニッシュ後に休憩を取らず、すぐに1艇でポートスピードのアップに取り掛かりました。ブローに入った時、ヒールが大きく、スピードに変わっていないという感じでしたので、パワーダウンを試みます。アウトホールを引き、カニンガム、バングも強めに引きます。シュラウドは既に一番後ろでしたので、そのまま。もっとハイクをし、乗艇位置も確かめます。細かい調整をしていくと、ブローで前に出るような良い感じになってきました。次のレースが正念場です。

そして、続く第4レースは僕たちにとって忘れられないレースとなりました。第3レースとほぼ同じコンディションの中スタートが切られ、左よりのブローを拾いながら上がった艇がトップ集団を形成。僕たちの艇はセッティングを変えた効果が出て、それほど走り負けはしていませんでしたが、それでもトップスピードと言うわけでもなく、6位で1上を回航。その後、後輩である浜名湖の長谷川君・有木さん艇など2-3艇と抜きつ抜かれつの走りをして、2上に向かいます。2上のアプローチで何艇かに前に入られ、2上は8位となります。このあたりで風が落ちてきていたため、風がかなりシフティになってきていました。上マークを回る前に先頭集団をみると皆スターボを伸ばしています。そこで僕たちは即ジャイブし、ポートで右海面のブローを選びます。これが当たって、下マークでは艇団の前で回ることができ、4位まで順位を上げます。この時点で風は2～3mにまで落ちていました。陸風で風が落ちてきたとき、吹き残りのひとつのブローが順位を大きく左右することがよくあります。次のブローをいち早く見つけて掴むことが勝負の分かれ目です。下マークの混雑をすり抜けてポートのクローズになってみると、風はやはり右にシフトしていましたが、その時点ではブローでのシフトではなく、また左に返している先頭艇を見てもブローは入っていません。そこでタックせず我慢してポートを伸ばしながら2人で風を探します。走りながら遠くの海面を見てみると、11時の方



向、かなり遠くに Y15 と RS の全日本が行われていましたが、走っている角度を見ると、右に風が大きくシフトしていることがわかりました。

その時点で一番右に出ているのは僕たちでしたので、もしそのブローが降りてくればかなりのゲインを得られます。そこで、風が落ちて波が残っているので、スピードを止めないように注意深く走らせながらその風が降りてくるのを祈ります。数分後、ジブに裏風が入り、タックを返すと上マークは正面から少しオーバーセイルしているくらい大きなシフトでした。快調に風を受けながら走ると、上マークでコース短縮。トップフィニッシュすることが出来ました。

第3レースでのポートスピードの問題を解消し、何とか先頭集団についていけたことと、2上の前と、2下の後に風のシフトをいち早く見つけられたのが良かったと思います。

ここで計算をしてみると、もし4レースで終わった場合、カットなしなので、僕たちは16点。20点の本吉艇とは4点差で優勝が決まります。しかし時間もまだ早く、もう1レースやる可能性が大きいので、5レースやった場合は、カットレースが生じ、僕たちは6点、本吉艇が10点でやはり4点差。平生夫妻も OCS をカットして上がってきます。優勝するには、最終レースを4位以内で入れれば自力優勝、もしくは本吉艇の後ろ2艇以内の差で入れたいということがわかりました。しかし僕たちの走り方としては、誰か特定の艇を意識するのではなく、今までどおり風と艇団を見てレース運びをする方が向いています。ですので4位以内を目指すことにします。

風が安定しない中、集中力を切らせないようにしながら長い風の待ちをした後、最終第5レースが始まりました。

初日と似たようなコンディションなので、セッティングを戻しスタートラインと潮をチェック。風軸は数分おきに何度もチェックします。2~3mの風は安定せず、一概にどちらの海面が良いと言う状態ではないようですが、初日の経験から左よりを意識します。スタートラインはほぼイーブン。僕たちはどちらでも行けるように、真中付近からフルスピードでスタートを切りました。

スタート後、上よりから出た3分の1ほど



がタックして右海面に向かっていきます。僕たちは角度、スピードともに良く、背中を気にしながら、そのままスターボを伸ばし左の風を拾いに行きます。風が左に振ったため、1上は、左の艇団でパウ出していた、平生夫妻艇、蜂須賀さん・大河さん艇に続き3位で回航できました。ここでトラブルが発生。サイドマークに向かう途中、上側前方でクルーザーがスピンの練習をしていましたが、ちょうど僕たちのブランチットの位置で大きなスピンを数分間シバーしていて、その影響で僕たちのスピードがガクンと落ちてしまいました。すぐ後ろからは4位で1上を回ったウドさん・宮本さん艇、その後からは艇団が迫ってきます。心臓が縮む思いで、何とかサイドマークに到達。ベアコースをとった蜂須賀さん艇を抜けましたが、ウ

ドさん艇には抜かれて3位で回航します。下マークもそのまま3位で回航し、ふと後ろを見てびっくり。すぐ後ろに譲治さんがいるではありませんか。特にマークはしていないので、スタート後おそらく右艇団にいるのはわかっていたのですが、フリーでは近くにはおらず、離れていると思っていましたら、6位まで順位を上げています。さすがの走りです。そして僕たちがポートを伸ばしているのを見て

とったのか即タックし左に向かっていきます。ここで焦って悪い位置でタックをしてしまうと、自ら墓穴を掘るので、我慢して次のシフトを待ちます。ヘッダーを待ってスターボに返すと、下前方にいた譲治さんがポートに返し、ここでミート。際どい下受けタックを打たれ、僕たちもタックして離れます。ここで一言「焦らないで」という石丸さんの声。そうそう、こういう時は冷静さが一番大事です。スピードに集中し、もう一度シフトを掴みなおします。そして再びミートしたときには前に出ることが出来ました。その後は良い風をつかみながら走りきり、3

位をキープしたままフィニッシュ。優勝を決めることが出来ました。

今回短い練習期間で大会に臨みましたが、風が弱かったことが僕らにはラッキーでした。そして何よりオーナークルーの石丸さんの活躍のおかげで、思った以上の結果を出せ大変光栄に思います。

テーザーはフレンドリーで乗っていて楽しく、でもレベルは高く、あのディンギーレース独特の緊張感を十分に堪能できる素晴らしいクラスだと思います。これからも活動を続けて2009年の日本開催のワールドには長男と一緒に出たいと密かに目論んでいます。今後ともよろしくお願いします。

チャレンジ 2006

2768 葉山フリート 渡辺さおり

2006.10.28 ~ 29 江ノ島にてテーザー級全日本選手権大会が行われ、我が2768チームは、久礼・金子・渡辺の3名で出場させていただきました。今年の全日本は珍しく2日も微軽風で、軽量チームの私達にとって非常に有利なレースとなりました。結果48艇中8位、果たしてその中身は・・・!?

挑戦

いきなりですが、私はヨットが大好きで

す。いわゆる『下手の横好き』とか『ヨットばかり』といわれる部類で、乗るだけで幸せだなあ・・・と思っていました。と同時に、心のどこかで、クルーとしてチーム内で足を引っ張るばかりでいつまでも上手くなれないという状況に少しストレスを感じ始めていた様な気がします。そんな時期にふとしたきっかけで持ち上がった『スキッパーで全日本出場する』という挑戦話は、この悶々とした状況から抜け出す為のまたとないチャンスであ

り、折角のチャンスを無駄にして後悔したくないという強い思いに変わりました。しかし、準備期間は3ヶ月・ジタバタしてもしょうがないので『出来る事をそれなりにやろう』と決め、強風の苦手意識克服、リコール癖の修正、艇速アップを重点課題として練習に取り組みました。毎週末しつつく練習に参加させて頂き、久礼・金子両人が不在の際にはクルーを貸して下さったソニーSCの皆様には本当に感謝しています。

全日本前日

全日本前日に江ノ島入りし、今回優勝チームの伊藤・石丸艇、4位の小松・小川艇と走り比べをした事は、とてもラッキーな出来事でした。軽風域での最初のクローズは、明らかに角度が違いどんどん離されてしまったのですが、伊藤さんにアドバイスを頂きセッティングを変更、サイドステイのスライダを一番後ろまで引いてフォアのテンションをあげるのと同時に、ジブクリューの穴を真ん中から1個上に変更しました。するとどうでしょう！ちゃんと離れず走れるではないですか！ブローがそのまま艇速につながる感じも気持ちいい！『私達の今までの練習は何だったんだ！？』と衝撃を受ける程すべりが良くなったのです。この最終調整により、自分の艇速に自信を持つ事ができたのはとても大きかったです。

1日目

前夜に行われたテザー協会の愉快的仲間達が集まった宴会でつい飲みすぎてしまい、レース1日目の朝はボカボカ陽気の中、なんだか元気一杯の久礼さんとは対照的に、私は寝不足と二日酔いで一人ぐったりしていました。スキッパーズMtgを終え、トイレも済ませ、なんとか気合を入れ直したものの、出艇前、久礼さんが私の緊張を和らげようとしてか「大丈夫、大丈夫。速い人ばかりだから。(ナベが)勝てるわけないから。」と満面の笑みで言うのです。確かに、全国から速い人がわんさか集結しており、周りを見渡しても雲の上の人ばかりです。しかし、この久礼さんの一言は、負けず嫌いの私の闘争心を燃え上がらせる最上級の言葉なものでした。それが原動力となつてか、1レース目は最後まで集中力を切らす事なく、また久礼さんの完璧なコース引きもあって、2位と今回の全日本で一番良い成績をとる事が出来ました。・・・が、残念な事に、この燃える闘魂モードの持続力は1レースだけで、すっかり通常モードの渡辺に切り替わった2レース目は、スタートでポヤポヤしている内に風が下に振れラインに辿り着けず、第5線スタートありゃりゃ・・・12位。そうなのです、大体私はいつも詰めが甘すぎるのです。

2日目

クルーは金子さん。軽量級なので、微風だったら有利だなー、と思いながら出艇しました。3レース目、スタート前、上側に大きなルームがあり、返してそこから出ようという事タックしたとたん船が傾き・・・な、なんと沈してしまつたのです。(！?) 皆さんは、スタートに集中していて、後

ろで静かに沈んでいる船の事には気付きもしなかつただろうと思いますが、私は、皆さんの背中を見ながら、そして沈起ししながら、必死にゼネリコを祈りました。いつもゼネリコを繰り返す皆さんの事です『今回もきっとやってくれるだろう』と信じていました。しかし、スタートホーンとともに上がった旗は、X旗・・・信じてたのに・・・(支援艇から見守っていた久礼さんは泣いてい



たそうです。笑) そして、ほぼ3分遅れでラインを切りDNSの危機を脱したものの、レースは遥か彼方で繰り広げられています。ただ追いつければ・・・。ペツリとジブに張り付き微動だにしないテルテルに苦戦しながら必死に走って・・・38位。金子さんと「こんな時の為に防水スプレー掛けておいた方が良いねー」なんてバカ話をしながらも、がっくり地の底まで落ち込んだのでした。続く4レース目は、精神的に凹んでいた為か、スタート後にも凹んでしまい、上手くコースを引く事が出来ず、一上は30番台後半で回ったと思います。『何だか慣れた景色だなー』と思いながら、ハタと『これはヤバイ！』と気付きました。気を取り直し、急いで上サイド下で数艇抜かし、下マーク回航後は、みんな左に返してラルにはまっているのを確認して、右のブローを取りに行きました。タックするとマークは目の前！奇蹟のジャンプアップで結果14位。ふう～っ。最終5レース目は、アウター寄りから出ました。下の船(ピンク色?)がヤケに高い位置から出ていたのですが、もう捨てレースを作る事が出来ない私達は、影響を受けてしま

低い位置からスタートしました。そのまま左に突っ込み、右海面の高い位置にいる艇団が気になってしょうがなかったのですが『悩んだ時は速い船について行く』という私の黄金の経験則に従い、すぐ上にいた小松・小川艇について行く事にしました。おかげで左のブローをつかんで一上をシングルで回航、途中ケースを起こしてペナルティ解消を一回転多く(!?)回ってしまつたりしたのですが、微風で有利だった為、何とか食らいついて6位。『終わりよければ全てよし!』という事で、ニコニコしながら着艇したのでした。(支援艇から見守っていた久礼さんはホッと胸をなでおろしたそうです。笑)

全日本の収穫

このように、レース内容はズッコケ場面が満載で、私の詰めめ甘さや未熟さが露呈する形となりました。成績も2 - 12 - 38 - 14 - 6とかなり凸凹で、今の私達の実力を如実に表しているようです。数え切れないほどの反省点があって、後悔がなかったと言うとウソになるかもしれませんが、代わりに『頑張ってもっと練習すれば上手になれるかも?』という希望をゲットしました。これは、なかなか上達できずにいじけていた私にとって、非常に大きな収穫となったのでした。

お礼

江ノ島フリートの皆様をはじめ、素晴らしいレース運営をして下さった多くの方々のおかげで、思う存分、全日本を楽しめた事に感謝致します。仕事以外の場所で、沢山のいい大人が全国から(世界から!)100人以上集まって、みんな、一生懸命・熱く・真剣にひとつの事柄に取り組む姿を見て、なんだかいいなー、そういう場所にいられるのは幸せだなー、とじんわり思った次第です。

・・・最後に、こんなナベを両脇からがっちり支え、引っ張っていつてくれた、久礼さん・金子さんのお二人にもこの場をお借りして心からありがとうを言いたいです。それでは皆様、また次のレースでお会いしましょう



第21回 テーザー級全日本選手権

2006年10月28日～29日 江ノ島ヨットハーバー

総合

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		5R		合計	得点
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1	2706	葉山	一般	伊藤 由	石丸 寿美子	3	3	2	2	10	40	1	1	3	3	19	9
2	JPN2395	葉山	一般	本吉 謙治	穂積 洋平・神内 悠里	4	4	5	5	1	1	11	44	5	5	26	15
3	2669	稲毛	一般	平生 純一郎	平生 玲子	OCS	49	1	1	11	11	9	9	1	1	71	22
4	2761	葉山	一般	小松 充	小川 雅	6	6	7	7	5	5	7	7	OCS	49	74	25
5	2676	稲毛	GM	金子 文雄	金子 ルミ	5	5	18	18	2	2	2	2	20	20	47	27
6	2572	稲毛	一般	軽部 香	軽部 竜也	OCS	49	3	3	14	14	8	8	4	4	78	29
7	2735	その他	M	Constantin Udo	宮本 哲生	7	7	8	8	27	27	13	13	2	2	57	30
8	2768	葉山	一般	渡辺 さおり	金子 直樹・久礼 嘉伸	2	2	12	12	38	38	14	14	6	6	72	34
9	2762	江ノ島	一般	赤井 寛	村上 誠一郎	14	14	4	4	6	6	12	12	12	12	48	34
10	2396	葉山	一般	山本 晴之	中島 玲子	15	15	9	9	8	8	18	48	7	7	57	39
11	2738	大阪北港	M	三輪 記裕	割石 じゅんこ	10	10	20	20	9	9	5	5	18	18	62	42
12	JPN 774	その他	M	TIM KNIGHT	MAYUMI KNIGHT	1	1	14	14	OCS	49	17	17	13	13	94	45
13	2809	浜名湖	一般	蜂須賀 強	大河 雄一	32	32	17	17	17	17	3	3	8	8	77	45
14	2707	浜名湖	GM	石塚 恒志	白岩 道孝	21	21	10	10	20	20	10	10	11	11	72	51
15	2709	葉山	一般	野嶋 嘉昭	石川 洋二	OCS	49	11	11	7	7	4	4	35	35	106	57
16	2657	浜名湖	一般	長谷川 勝啓	有木 洋介	8	8	34	34	4	4	15	15	31	31	92	58
17	2730	稲毛	M	宇佐美 重則	小田倉 里美	12	12	19	19	12	12	33	33	17	17	93	60
18	2670	芦屋	GM	内村 祥史	安澤 厚男	17	17	26	26	18	18	21	21	10	10	92	66
19	2223	江ノ島	M	安河内 英治	杉浦 琴	9	9	13	13	21	21	26	26	28	28	97	69
20	2663	琵琶湖	M	秋山 紀夫	高山 勝	OCS	49	28	28	3	3	16	16	23	23	119	70
21	2615	葉山	一般	田口 裕介	森 理子	29	29	6	6	22	22	34	34	19	19	110	76
22	2739	その他	一般	加野 靖紀	河野 恭子	OCS	49	33	33	13	13	6	6	25	25	126	77
23	2732	江ノ島	一般	星野 直広	安田 貴美子・松川 護	11	11	21	21	36	36	30	30	15	15	113	77
24	572	その他	一般	関口 真秀	関根 恒久	18	18	15	15	OCS	49	20	20	24	24	126	77
25	423	その他	一般	玉置 淳	松原 茂樹	19	19	23	23	23	23	22	22	14	14	101	78
26	2671	葉山	一般	小林 昌弥	内田 勝久	25	25	16	16	31	31	19	19	27	27	118	87
27	2708	葉山	一般	梅田 哲士	安藤 拓史・谷津 美幸	33	33	31	31	15	15	35	35	9	9	123	88
28	2602	稲毛	一般	田中 真人	井上 敦	OCS	49	29	29	16	16	25	25	29	29	148	99
29	2621	葉山	M	山下 栄輝	山下 陽子・島中 圭子	20	20	25	25	24	24	37	37	33	33	139	102
30	2652	江ノ島	SGM	山分 信	田口 公一	27	27	27	27	26	26	24	24	26	26	130	103
31	2764	芦屋	一般	中西 英貴	中西 美紀	16	16	37	37	25	25	28	28	36	36	142	105
32	2712	芦屋	一般	下村 晃司	安田 一真	22	22	24	24	32	32	27	27	37	37	142	105
33	2675	葉山	SGM	安原 実郎	戸田 隆久	36	36	22	22	29	29	38	38	21	21	146	108
34	2202	大阪北港	M	徳田 幹太	吉村 均	23	23	35	35	33	33	23	23	30	30	144	109
35	2552	葉山	一般	荒島 謙治	町田 亜紀	OCS	49	46	46	19	19	32	32	16	16	162	113
36	2720	葉山	一般	岡 誠	建内 満	13	13	39	39	34	34	29	29	40	40	155	115
37	2609	葉山	一般	外石 満	矢柴 明美	28	28	32	32	37	37	31	31	32	32	160	123
38	2748	葉山	M	石原 裕二	本間 威	31	31	40	40	46	46	40	40	22	22	179	133
39	2073	稲毛	一般	富田 亮二	石内 寿子	26	26	36	36	28	28	43	43	OCS	49	182	133
40	2806	江ノ島	M	村尾 隆	津田 展明	OCS	49	30	30	30	30	36	36	38	38	183	134
41	2741	江ノ島	一般	瀧本 浩一	塚原 郁朗	30	30	41	41	35	35	39	39	34	34	179	138
42	2453	葉山	一般	多井 堅一郎	阪井 祐介・有持 祐之	24	24	38	38	42	42	45	45	41	41	190	145
43	2534	芦屋	一般	児島 克博	鈴木 章弘	35	35	44	44	40	40	42	42	39	39	200	156
44	2203	葉山	一般	野本 雅史	永尾 岳史・武田 崇宏	38	38	DNF	49	41	41	41	41	42	42	211	162
45	2143	その他	一般	池田 光孝	大串 英宣	34	34	42	42	44	44	46	46	44	44	210	164
46	2466	江ノ島	M	高橋 徹	長澤 治	39	39	47	47	39	39	44	44	43	43	212	165
47	2211	江ノ島	M	佐々木 和人	樋口 佳久	37	37	45	45	43	43	DNF	49	45	45	219	170
48	2660	芦屋	一般	佐藤 和紀	臼井 由利子・掛川 宏	40	40	43	43	45	45	DNF	49	DNF	49	226	177

第21回 テーザー級全日本選手権

2006年10月28日～29日 江ノ島ヨットハーバー

マスタークラス（スキッパー、クルーの合計年齢80歳以上）

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		5R		合計	得点
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1	2735	その他	M	Constantin Udo	宮本 哲生	2	2	1	1	6	6	2	2	1	1	12	6
2	JPN 774	その他	M	TIM KNIGHT	MAYUMI KNIGHT	1	1	4	4	OCS	43	4	4	2	2	24	11
3	2738	大阪北港	M	三輪 記裕	割石 じゅんこ	4	4	5	5	2	2	1	1	4	4	16	11
4	2730	稲毛	M	宇佐美 重則	小田倉 里美	5	5	2	2	3	3	7	7	3	3	20	13
5	2223	江ノ島	M	安河内 英治	杉浦 琴	3	3	3	3	4	4	6	6	7	7	23	16
6	2663	琵琶湖	M	秋山 紀夫	高山 勝	OCS	43	7	7	1	1	3	3	6	6	30	17
7	2621	葉山	M	山下 栄輝	山下 陽子・島中 圭子	6	6	6	6	5	5	9	9	9	9	35	26
8	2202	大阪北港	M	徳田 幹太	吉村 均	7	7	9	9	8	8	5	5	8	8	37	28
9	2748	葉山	M	石原 裕二	本間 威	8	8	10	10	11	44	10	10	5	5	44	33
10	2806	江ノ島	M	村尾 隆	津田 展明	OCS	43	8	8	7	7	8	8	10	10	46	33
11	2466	江ノ島	M	高橋 徹	長澤 治	10	10	12	42	9	9	11	11	11	11	53	41
12	2211	江ノ島	M	佐々木 和人	樋口 佳久	9	9	11	11	10	10	DNF	43	12	12	55	42

グランドマスタークラス（スキッパー、クルーの合計年齢100歳以上）

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		5R		合計	得点
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1	2676	稲毛	GM	金子 文雄	金子 ルミ	1	1	2	2	1	1	1	1	3	3	8	5
2	2670	芦屋	GM	内村 祥史	安澤 厚男	2	2	3	3	2	2	3	3	1	1	11	8
3	2707	浜名湖	GM	石塚 恒志	白岩 道孝	3	3	1	1	3	3	2	2	2	2	11	8

スーパーグランドマスタークラス（スキッパー、クルーの合計年齢120歳以上）

Pos	Sail No	フリート	クラス	スキッパー	クルー	1R		2R		3R		4R		5R		合計	得点
						順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1	2652	江ノ島	SGM	山分 信	田口 公一	1	1	2	2	1	1	1	1	2	2	7	5
2	2675	葉山	SGM	安原 実郎	戸田 隆久	2	2	1	1	2	2	2	2	1	1	8	6

フリート対抗成績

3艇以上参加のフリートで、参加艇の平均得点。

3艇未満のフリートは「その他」

Pos	フリート	参加艇数	総得点	平均得点
1	浜名湖	3	154	51.3
2	稲毛	6	370	61.7
3	その他	9	692	76.9
4	葉山	17	1431	84.2
5	江ノ島	8	890	111.3
6	芦屋	5	609	121.8



優勝
伊藤由・石丸寿美子組
(葉山)



準優勝
本吉譲治・穂積洋平・神内悠里組
(葉山)



第3位
平生純一郎・玲子組
(稲毛)

メジャラー交代のお知らせ

昨年12月からメジャラーを葉山フリートの宮下知之さんに引き受けてもらいました。

テーザー歴は最も長い一人で、安心してメジャラーを任せられる方です。同時に日本セーリング連盟のワンデザインクラス計測委員会にもテーザークラス代表として参加してもらうことになりました。テーザークラスの法の番人として、活躍を期待しています。みなさんよろしくお祈りします。

会長・金子 文雄

新メジャラーより

昨年の12月より、JTAのメジャラーになりました。葉山フリートの宮下です。任期1年の短い期間ですが、がんばってやっていこうと思います。ご協力よろしくお祈りします。Tasarは昨年からマイラーセールが導入され、ハルもオーストラリアからシンガポール / インドネシアに造船所を移すなど、Tasar史上一番(?)の変化の

あった年でありました。今年もダクロンセールとマイラーセールが混在するレースになるでしょうが、できるだけ多くのTasarセーラーが楽しくセーリングできるようにレースのやり方を再考したり、クラスルール等の見直しも積極

的に考えたいと思っていますので、ご協力お願いします。

さっそくですがチーフメジャラーであるグラハム・ハンナ氏によりマイラーセールに関するルールの補足説明に追加がありました。JTAのホームページを更新しましたのでご覧下さい。また、この補足説明に対し、WTCAのリチャード・スペンサー氏がコメントを出していますので紹介します。さらに、ベスウェイト氏からハルの製造に関するコメント(文章が非常に長いのでニュースレターには掲載しません、ご了承ください)が出されたのでJTAのホームページに掲載しました。ご覧下さい。

日本国内ではGPSの搭載が検討されています。もちろんGPSはレース後に航跡データ

を取り出す目的以外に使用できません。レースや練習後に自艇や他艇がどのように帆走していたかを見ることができるといって、レース後の楽しみが増えると思われます。私も実は1台購入して試してみました。Windowsユーザーの方は、「どこでもヨットレース」(<http://www.meizan.jp/e-yacht/index-j.html>)というフリーソフトを使って航跡を見ることができます。またGoogleから出されているGoogle EarthでもGPSのログを取り込めるようになりました。(写真参照: 葉山港から出艇して帰ってくるまでの航跡がハッキリ見ることができます。)次のミッドウインターではレース中の搭載がレース公示で許可されることになりましたので、レースに出られなかった方もレース展開を見ることが可能になります。

(メジャラー・宮下 知之)



